

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>1 国際リニアコライダー（I L C）の実現について</p> <p>平成25年（2013年）8月、I L Cの国内建設候補地が、当市を含む北上高地に一本化されたところでありましたが、国は日本学術会議の提言を受け、有識者会議を設置し専門的な見地から議論を行っており、平成27年（2015年）6月の中間とりまとめでは、実現に向けた課題や取り組むべき方向が示されたところです。</p> <p>東北地方では加速器関連技術を用いたプロジェクトが順次計画されており、今後、関連産業の集積が進み、その集大成としてI L Cの建設が実現すれば、日本が国際的な科学拠点として世界に対し大きく貢献するとともに、新たな地方創生につながることを期待されます。</p> <p>ついては、国に対し、I L Cの日本誘致の方針を早期に決定し、資金の分担や研究参加に関する国際調整等をすみやかに進めるよう働きかけるとともに、広域的な連携を図りながら、I L Cの受け入れに向けた一層の取組を進めるよう要望します。</p>	<p>国際リニアコライダー（I L C）の実現は、日本が世界に大きく貢献するとともに、高度な技術力に基づくものづくり産業の成長発展のみならず、日本再興や地方創生にも大きく寄与するものと考えています。そのため、これまでも岩手県内はもとより、東北大学や東北I L C推進協議会などの関係機関と連携しながら、東北一丸となってI L C実現に向けた活動を推進してきたところです。</p> <p>県としては、国に対しI L Cの国内誘致の政府判断までのプロセス等について具体的に明示するとともに、資金の分担や研究参加に関する国際調整等を速やかに進め、I L Cの国内誘致の方針を早期に決定するよう要望したところです。今後も、東北I L C準備室など関係機関との連携を強化しつつ、国への働きかけを行うとともに、受入環境の整備、I L Cに対する地元の機運の醸成などについて、広く取り組んでいきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>A</p>
<p>2 まち・ひと・しごとの創生に向けた支援について</p> <p>2-1 若者の地元就職と離職防止対策について</p> <p>1 ジョブカフェ一関の機能拡充による地元就職及び職場定着への支援</p> <p>一関公共職業安定所管内の雇用状況については、平成28年（2016年）4月現在の有効求人倍率は0.98倍と、平成25年（2013年）8月以降、1倍前後の水準で推移しております。</p> <p>一方、当市の新規高卒者就職内定状況をみますと、約5割が市外へ就職しており、また、新規高卒者の離職状況は、平成24年（2012年）3月卒業者の3年以内の離職率が、全国平均を上回っている状況にあります。</p> <p>このことは、若者の地元就職及び職場定着、さらには地域企業の経営面からも大きな課題となっているとともに、若者が市外に流出する要因の一つとなっております。</p> <p>ついては、雇用のミスマッチ解消を図り、若者の地元就職と職場定着を支援するため、次の事項について要望します。</p> <p>1 ジョブカフェ一関の機能拡充による地元就職及び職場定着への支援</p>	<p>ジョブカフェ一関は、平成17年度に設置されて以来、一関地域の若年者の就業支援の拠点として、学校、企業及び関係機関と連携しながら、就業相談、就職関連セミナーの開催、小中高のキャリア教育支援を行ってきたところです。</p> <p>設置から11年を経過した中で、今後のジョブカフェのあり方を含めて、現在大きな課題となっている人口減少や若年者の地元定着に対する役割について、貴市と連携しながら検討していきたいと考えています。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>2 まち・ひと・しごとの創生に向けた支援について 2-1 若者の地元就職と離職防止対策について 2 高校生を対象とした企業との情報交換会など、市等が実施する若者の地元就職及び離職防止対策への助成</p> <p>一関公共職業安定所管内の雇用状況については、平成28年(2016年)4月現在の有効求人倍率は0.98倍と、平成25年(2013年)8月以降、1倍前後の水準で推移しております。</p> <p>一方、当市の新規高卒者就職内定状況をみますと、約5割が市外へ就職しており、また、新規高卒者の離職状況は、平成24年(2012年)3月卒業者の3年以内の離職率が、全国平均を上回っている状況にあります。</p> <p>このことは、若者の地元就職及び職場定着、さらには地域企業の経営面からも大きな課題となっているとともに、若者が市外に流出する要因の一つになっております。</p> <p>については、雇用のミスマッチ解消を図り、若者の地元就職と職場定着を支援するため、次の事項について要望します。</p> <p>2 高校生を対象とした企業との情報交換会など、市等が実施する若者の地元就職及び離職防止対策への助成</p>	<p>貴市においては、一関公共職業安定所との共催により、高校生と企業の情報交換会の開催や、近隣市町村と連携しながら中東北ふるさと就職ガイダンスを開催するなど、精力的に若年者の就業支援を行っているものと認識しています。</p> <p>県としても、地元企業の理解促進を図るため高校の先生を対象とした企業見学会の実施や、職業観醸成のためのセミナーや社会人講話等のキャリア教育支援、就業支援員による学校訪問を通じた地元就職と企業訪問を通じた定着支援を市や公共職業安定所、高等学校等と連携して行っているところです。</p> <p>県では、市等への直接的な助成ではなく、県と市がそれぞれの役割分担のもと、相乗効果を発揮するように各自の取組を連携して行っていくことが重要と考えており、引き続き、地元就職支援、早期離職防止に向け、効果的な対策を進めるとともに、貴市が実施する事業についても、共催や後援などの方法により可能な限り連携して取り組んでいきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>
<p>2 まち・ひと・しごとの創生に向けた支援について 2-2 看護師、介護職員等の医療・介護人材確保対策の充実について 1 看護師、介護職員等の処遇や労働環境の改善、キャリアアップや潜在有資格者の再就職支援、福祉・介護職場のイメージアップなど、医療・介護人材の確保、定着に向けた施策の更なる充実</p> <p>団塊の世代が75歳以上となる平成37年(2025年)には、当市の高齢化率は38.8パーセントとなり、今後、医療ニーズの高い高齢者や重度の要介護者の増加が見込まれております。</p> <p>このため、当市では、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療・介護人材の確保に努めているところです。</p> <p>については、次の事項について国に対し働きかけるよう要望いたします。</p> <p>1 看護師、介護職員等の処遇や労働環境の改善、キャリアアップや潜在有資格者の再就職支援、福祉・介護職場のイメージアップなど、医療・介護人材の確保、定着に向けた施策の更なる充実</p>	<p>看護師については、医療人材の確保・定着のため、「いわて看護職員確保定着アクションプラン」に基づき、修学資金の拡充による看護職員の養成、看護学生サマーセミナーによる県内定着促進、新人看護職員研修による早期離職の防止、労働部門とも連携した勤務環境改善の推進、各段階に応じた資質向上研修や認定看護師研修の実施によるキャリアアップ支援などに継続して取り組んでいます。</p> <p>また、これまでの取組に加え、平成27年10月に新たに開始された「看護師等の届出制度」を活用するなど、離職した看護職員の再就業支援などにも注力し、取組の充実を図ることとしています。</p> <p>介護人材については、修学資金の貸付けや求職者と求人とのマッチング支援、職場環境や処遇の改善の促進、資格取得の支援やキャリアに応じた各種研修の実施などに取り組んでいます。また、これまでの取組に加え、市町村等が行う介護の仕事への理解促進や新人職員の早期離職の防止に向けた取組への支援など、「平成28年度いわてで働こう推進方針」による介護人材確保に向けた取組とも協調しながら取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>これらの取組の継続や充実に向け、政府予算要望において、介護従事者に対する処遇改善を図るための適切な水準の介護報酬の設定のほか、地域の実情に応じた必要な事業の確実な実施のための地域医療介護総合確保基金に係る事業区分間の額の調整の柔軟化を国に要望しているところです。なお、全国知事会においても「高齢者認知症対策・介護人材確保プロジェクトチーム」を立ち上げ、国に対して、介護人材の確保に向けた緊急提言を平成28年8月に行いました。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>保健福祉環境部</p>	<p>B</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>2 まち・ひと・しごとの創生に向けた支援について</p> <p>2-2 看護師、介護職員等の医療・介護人材確保対策の充実について</p> <p>2 医療・介護人材確保対策への財政支援措置の充実</p> <p>団塊の世代が75歳以上となる平成37年(2025年)には、当市の高齢化率は38.8パーセントとなり、今後、医療ニーズの高い高齢者や重度の要介護者の増加が見込まれております。</p> <p>このため、本市では、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療・介護人材の確保に努めているところです。</p> <p>ついては、次の事項について国に対し働きかけるよう要望いたします。</p> <p>2 医療・介護人材確保対策への財政支援措置の充実</p>	<p>団塊の世代が全て75歳以上となる平成37年を見据え、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築や地域包括ケアシステムの構築を推進するため、各都道府県に地域医療介護総合確保基金が設置され、各都道府県は、計画を作成し、計画に基づいて事業を実施しているところです。</p> <p>本県においても、医療・介護人材の確保や病床機能の分化・連携の推進など、地域包括ケアシステムの構築に向け、基金を活用しながら事業を実施しているところですが、県内各地域の実情に応じて必要な事業が確実に実施できるよう、基金について、事業区分間の額の柔軟な調整をできるようにするとともに、予算の安定的な確保や制度の恒久化を国に要望しているところであり、引き続き国に対し働きかけていきたいと考えています。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>保健福祉環境部</p>	<p>B</p>
<p>2 まち・ひと・しごとの創生に向けた支援について</p> <p>2-3 日本版DMOの取組への支援について</p> <p>1 当地域での日本版DMOの設立及び運営に係る財政的支援</p> <p>平成27年(2015年)の訪日外国人旅行者数は、過去最高を記録しましたが、東北の観光は、原発事故の風評被害の影響等により、全国的なインバウンド急増の効果を享受できていないなど、依然として厳しい状況にあります。</p> <p>このため、本市と定住自立圏を形成している平泉町と連携し、日本版DMO(観光地域づくり推進組織)を設立し、インバウンド等の交流人口の拡大を目指しております。</p> <p>ついては、次の事項について国に対し働きかけるとともに、広域的な観光施策支援の取組を進めるよう要望します。</p> <p>1 当地域での日本版DMOの設立及び運営に係る財政的支援</p>	<p>一関・平泉地域は、観光資源が豊富なところであり、地域が一体となった組織でインバウンド等の交流人口の拡大に取り組むことは、有意義なことから、県南広域振興局としても、組織の設立や運営を支援していきたいと考えています。</p> <p>組織の設立に向けて、一関市及び平泉町では、国の地方創生加速化交付金を活用し、取り組んでいると承知しています。</p> <p>組織の設立等について、今後も、国の「地方創生推進交付金」の活用が考えられることから、県では、国に対して外国人観光客の誘客の拡大と定着が図られるまでの間、必要な額を確実に予算措置するよう要望しているところです。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>
<p>2 まち・ひと・しごとの創生に向けた支援について</p> <p>2-3 日本版DMOの取組への支援について</p> <p>2 東北へのインバウンド拡大に向けた施策の推進及び市町村への財政支援制度の創設</p> <p>平成27年(2015年)の訪日外国人旅行者数は、過去最高を記録しましたが、東北の観光は、原発事故の風評被害の影響等により、全国的なインバウンド急増の効果を享受できていないなど、依然として厳しい状況にあります。</p> <p>このため、本市と定住自立圏を形成している平泉町と連携し、日本版DMO(観光地域づくり推進組織)を設立し、インバウンド等の交流人口の拡大を目指しております。</p> <p>ついては、次の事項について国に対し働きかけるとともに、広域的な観光施策支援の取組を進めるよう要望します。</p> <p>2 東北へのインバウンド拡大に向けた施策の推進及び市町村への財政支援制度の創設</p>	<p>東北へのインバウンドの拡大に向けて、外国人観光客の受入態勢の整備や海外への情報発信等が課題と認識しています。</p> <p>東北観光推進機構では、「日本の奥の院・東北探訪ルート」形成計画に基づき、外国人観光客の受入態勢の整備や海外への情報発信等を推進しており、県も連携し、取り組んでいます。</p> <p>また、市町村におけるインバウンド関連事業には、国が今年度創設した「東北観光復興対策交付金」の活用ができることから、県では、国に対して「東北観光復興対策交付金」などによる支援について、外国人観光客の誘客の拡大と定着が図られるまでの間、必要な額を確実に予算措置するよう要望しているところです。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>2 まち・ひと・しごとの創生に向けた支援について</p> <p>2-3 日本版DMOの取組への支援について</p> <p>3 県境を越えた広域的な観光施策への支援</p> <p>平成27年(2015年)の訪日外国人旅行者数は、過去最高を記録しましたが、東北の観光は、原発事故の風評被害の影響等により、全国的なインバウンド急増の効果を享受できていないなど、依然として厳しい状況にあります。</p> <p>このため、当市と定住自立圏を形成している平泉町と連携し、日本版DMO(観光地域づくり推進組織)を設立し、インバウンド等の交流人口の拡大を目指しております。</p> <p>については、次の事項について国に対し働きかけるとともに、広域的な観光施策支援の取組を進めるよう要望します。</p> <p>3 県境を越えた広域的な観光施策への支援</p>	<p>広域的な観光施策を推進するためには、県境を越えた連携が必要と考えています。</p> <p>県南広域振興局では、平成22年度から岩手県、宮城県、県際の観光市町等からなる「岩手・宮城県際広域観光推進研究会」を組織し、平成28年度は、当該地域のイベント情報をホームページに掲載しているほか、ドライブマップの作成などに取り組んだところであります。</p> <p>今後、県南広域振興局では、外国人観光客の誘客についても、この研究会の場を活用しながら、支援していきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>1 国道343号新笹ノ田(しんささのだ)トンネルの早期事業化</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年(2014年)には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>1 国道343号新笹ノ田(しんささのだ)トンネルの早期事業化</p>	<p>一般国道284号の室根バイパスについては、平成21年度に事業着手し、平成25年度に工事に着手しました。</p> <p>平成27年度は用地補償、改良工事、橋梁工事、埋蔵文化財調査等を進め、概ね全区間で工事に着手しました。平成28年度においても、引き続き、改良工事、橋梁工事を進めるとともに、舗装工事にも着手したところです。</p> <p>平成29年度もこれらの工事を引き続き実施し、早期の供用に向け、整備推進に努めていきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について 2 国道284 号室根バイパスの早期完成</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343 号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26 年（2014 年）には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9 万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>2 国道284 号室根バイパスの早期完成</p>	<p>一般国道284号の室根バイパスについては、平成21年度に事業着手し、平成25年度に工事に着手しました。</p> <p>平成27年度は用地補償、改良工事、橋梁工事、埋蔵文化財調査等を進め、概ね全区間で工事に着手しました。平成28年度においても、引き続き、改良工事、橋梁工事を進めるとともに、舗装工事にも着手したところです。</p> <p>平成29年度もこれらの工事を引き続き実施し、早期の供用に向け、整備推進に努めていきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(1) 国道4号</p> <p>① 高梨（たかなし）交差点から一関大橋北交差点までの交通事故対策事業の早期完成</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年（2014年）には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(1) 国道4号</p> <p>① 高梨（たかなし）交差点から一関大橋北交差点までの交通事故対策事業の早期完成</p>	<p>一般国道4号の高梨交差点から一関大橋北交差点までの整備については、国が一関地区事故対策事業として平成24年度に事業着手し、現在、橋梁工事及び用地買収を推進しており、平成29年度も引き続き橋梁工事及び用地買収を推進する予定と伺っています。</p> <p>県としては、貴市と連携しながら、国に対し整備促進について要望していきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(1) 国道4号</p> <p>② 高梨（たかなし）交差点以南の交通事故対策事業区間の拡大</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年（2014年）には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(1) 国道4号</p> <p>② 高梨（たかなし）交差点以南の交通事故対策事業区間の拡大</p>	<p>一般国道4号の高梨交差点以南の交通事故対策事業区間の拡大については、御要望の区間を含む、一般国道4号の2車線区間全体の早期4車線化に向けて引き続き国へ要望していきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(1) 国道4号</p> <p>③ 大槻（おおつき）交差点から平泉バイパス南口交差点までの急勾配による冬期間の事故対策及び渋滞緩和を図る拡幅整備</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特に、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年（2014年）には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(1) 国道4号</p> <p>③ 大槻（おおつき）交差点から平泉バイパス南口交差点までの急勾配による冬期間の事故対策及び渋滞緩和を図る拡幅整備</p>	<p>一般国道4号の大槻交差点から平泉バイパス南口交差点までの急勾配による冬期間の事故対策については、スタック車両対応等、除雪体制を強化しており、安全安心な道路交通の確保に努めていくと国から伺っています。</p> <p>また、渋滞緩和を図る拡幅整備については、御要望の区間を含む、一般国道4号の2車線区間全体の早期4車線化に向けて引き続き国へ要望していきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(2) 国道284号</p> <p>① 室根バイパスに併設する「道の駅」の整備</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年(2014年)には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(2) 国道284号</p> <p>① 室根バイパスに併設する「道の駅」の整備</p>	<p>「道の駅」は休憩機能、情報発信機能、地域の連携機能を併せ持つ施設で、道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供と地域振興に寄与することを目的に設けられるものです。</p> <p>室根バイパスに併設する「道の駅」の整備については、地域振興施設を整備する貴市と調整を図りながら、駐車施設等の計画を進めており、平成29年度内の完成に向け引き続き事業の推進に努めます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(2) 国道284号</p> <p>② 石法華(いしぼっけ)地区の整備促進</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年(2014年)には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(2) 国道284号</p> <p>② 石法華(いしぼっけ)地区の整備促進</p>	<p>一般国道284号の石法華地区については、平成25年度に事業着手し、平成26年度までに道路詳細設計及び用地測量、補償物件調査を実施し、平成27年度から用地取得に向けて関係者との交渉に着手し、平成28年度は、一部関係者から用地を取得したところです。平成29年度は、残る関係者との交渉を進める予定です。</p> <p>今後とも地元の御協力をいただきながら、整備推進に努めていきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(3) 国道342号</p> <p>① 白崖（しらがけ）地区の整備促進及び宮城県境までの早期整備</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特に、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年（2014年）には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(3) 国道342号</p> <p>① 白崖（しらがけ）地区の整備促進及び宮城県境までの早期整備</p>	<p>一般国道342号の白崖（しらがけ）地区については平成24年度に事業着手し、平成26年度までに、南側（1工区）約1.6km区間の道路詳細設計、橋梁詳細設計及び用地測量、物件補償調査を実施し、平成27年度は、南側（1工区）の用地を一部取得するとともに、北側（2工区）約0.8km区間の道路詳細設計を実施しました。</p> <p>平成28年度は、引き続き南側（1工区）の用地取得と、北側（2工区）の用地測量、物件補償調査を実施しています。平成29年度は、工区全体の用地取得を進めるとともに、南側（1工区）での改良工事を実施する予定です。</p> <p>今後とも地元の御協力をいただきながら、整備推進に努めていきます。</p> <p>白崖地区から宮城県境までの間の整備については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討してまいります。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B、C</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(3) 国道342号</p> <p>② 大槻交差点から一関東工業団地を経て、金沢（かざわ）地区までのルート変更</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年（2014年）には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(3) 国道342号</p> <p>② 大槻交差点から一関東工業団地を経て、金沢（かざわ）地区までのルート変更</p>	<p>国道の路線変更に当たっては、当該国道の持つ機能や周辺の道路網、利用形態、周辺施設の状況等を総合的に勘案し、効果的な交通ネットワークが形成されるよう、慎重な検討が必要となります。</p> <p>御要望の路線についても、上記の考え方を基に、対象となる道路の整備状況や交通量の推移、公共事業予算の動向等を踏まえ、一関市内の道路ネットワークにおける市道との機能分担、県として管理する必要性等を総合的に判断し、協議を進めていきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(4) 国道343号</p> <p>① 笹ノ田峠の凍結対策及び積雪対策の継続と強化</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年(2014年)には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(4) 国道343号</p> <p>① 笹ノ田峠の凍結対策及び積雪対策の継続と強化</p>	<p>冬期の安全対策については、除雪計画及び除雪作業出動基準等に基づき、融雪剤散布や除雪等を実施しています。</p> <p>引き続き、道路パトロール及び路面監視カメラ等で現地の状況確認をし、委託業者との連携を密にするなど、より一層きめ細やかな対応に努めていきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>A</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>(4) 国道343号</p> <p>② 渋民(しぶたみ)地区の整備促進</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年(2014年)には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(4) 国道343号</p> <p>② 渋民(しぶたみ)地区の整備促進</p>	<p>一般国道343号の渋民地区については、平成27年度に事業着手し、測量、道路・橋梁・トンネルの詳細設計及び地質調査を実施したところです。平成28年度は、引き続き、詳細設計、地質調査を進めるとともに、一部区間で用地測量を実施しています。平成29年度は、残る区間の用地測量を実施するとともに、用地取得を進める予定です。</p> <p>今後とも地元の御協力をいただきながら、整備推進に努めていきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について (5) 国道456号 ① 藤沢バイパスの早期実現</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年(2014年)には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備 (5) 国道456号 ① 藤沢バイパスの早期実現</p>	<p>一般国道456号の藤沢バイパスについては、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の事業化は難しい状況です。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について (5) 国道456号 ② 宮城県境付近のトンネル化</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年(2014年)には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備 (5) 国道456号 ② 宮城県境付近のトンネル化</p>	<p>一般国道456号の宮城県境付近七曲峠の整備については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討してまいります。早期の整備は難しい状況です。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について (6) 国道457号 ① 高梨交差点から萩荘（はぎしょう）小学校入口交差点までの都市計画決定幅での拡幅整備</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特に、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年（2014年）には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備 (6) 国道457号 ① 高梨交差点から萩荘（はぎしょう）小学校入口交差点までの都市計画決定幅での拡幅整備</p>	<p>高梨交差点から萩荘小学校入口交差点までの都市計画決定幅での改良整備については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討してまいります。早期の整備は難しい状況です。</p> <p>なお、道路北側に歩道が設置されていますが、道路南側には歩道が設置されていないことから、南側の住宅地に隣接する萩荘小学校入口交差点付近から東側450mの区間について、平成27年度から道路南側への歩道設置工事に着手しており、平成28年度に完成する予定です。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について (6) 国道457号 ② 泉山(いずみやま)バス停から三島神社(みしまじんじゃ)までの急勾配・急カーブの解消</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年(2014年)には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備 (6) 国道457号 ② 泉山(いずみやま)バス停から三島神社(みしまじんじゃ)までの急勾配・急カーブの解消</p>	<p>一般国道457号の泉山バス停から三島神社までの間の整備については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討してまいります。早期の整備は難しい状況です。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>(7) 主要地方道一関北上線</p> <p>① 新柵の瀬橋（しんさくのせばし）の整備促進</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年（2014年）には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(7) 主要地方道一関北上線</p> <p>① 新柵の瀬橋（しんさくのせばし）の整備促進</p>	<p>主要地方道一関北上線の柵の瀬橋の架け替えについては、平成25年度に事業着手し、平成27年度までに橋梁下部工12基が完了しております。</p> <p>平成28年度は、残る橋梁下部工5基を完了させるとともに、橋梁上部工工事にも着手しました。平成29年度は、引き続き、橋梁上部工工事を進める予定です。</p> <p>今後とも地元の御協力をいただきながら、整備推進に努めていきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について (7) 主要地方道一関北上線 ② 都市計画道路山目駅前（やまのめえきまえ）釣山（つりやま）線の事業認可区間以北の早期事業化</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特に、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年（2014年）には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備 (7) 主要地方道一関北上線 ② 都市計画道路山目駅前（やまのめえきまえ）釣山（つりやま）線の事業認可区間以北の早期事業化</p>	<p>主要地方道一関北上線の中央町一丁目から宮前町までの事業認可区間については、平成20年度に事業着手し、平成25年度に中央町一丁目～竹山交差点までの整備を完了しており、残る竹山交差点から宮前町までの拡幅整備は、平成28年度と平成29年度の2か年の予定で整備を進めています。</p> <p>御要望の区間の事業化については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の整備は難しい状況です。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>(8) 主要地方道一関大東線</p> <p>① 柴宿（しばじゅく）から摺沢（すりさわ）までの抜本的な改良整備</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年（2014年）には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(8) 主要地方道一関大東線</p> <p>① 柴宿（しばじゅく）から摺沢（すりさわ）までの抜本的な改良整備</p>	<p>主要地方道一関大東線の東山町柴宿から大東町摺沢間においては、生出地区及び流矢地区を生出工区として整備を進め、平成26年度に整備を完了したところです。</p> <p>同区間のさらなる抜本的な改良整備については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の整備は難しい状況です。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>(9) 主要地方道花泉藤沢線</p> <p>① 北上川橋(きたかみがわばし)の拡幅整備及び歩道設置</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年(2014年)には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(9) 主要地方道花泉藤沢線</p> <p>① 北上川橋(きたかみがわばし)の拡幅整備及び歩道設置</p>	<p>主要地方道花巻藤沢線の北上川橋については、現在、劣化が進んでいる床版の補修工事を進めており、平成28年度に完成する予定です。</p> <p>また、引き続き橋梁耐震補強工事に着手しており、平成29年度は補強工事に着手する予定です。</p> <p>御要望の北上川橋の拡幅整備及び歩道設置については、大規模な事業となることを見込まれることから、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の事業化は難しい状況です。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>(10) 主要地方道弥栄金成線</p> <p>① 弥栄（やさかえ）地区から金沢地区までの抜本的な改良整備</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年（2014年）には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>ついでには、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(10) 主要地方道弥栄金成線</p> <p>① 弥栄（やさかえ）地区から金沢地区までの抜本的な改良整備</p>	<p>主要地方道弥栄金成線の弥栄地区から金沢地区までの抜本的な改良整備については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の整備は難しい状況です。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について</p> <p>(11) 主要地方道本吉室根線</p> <p>① 津谷川本宿（つやがわもとしゅく）地区の改良整備</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特にも、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年（2014年）には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備</p> <p>(11) 主要地方道本吉室根線</p> <p>① 津谷川本宿（つやがわもとしゅく）地区の改良整備</p>	<p>主要地方道本吉室根線の津谷川本宿地内の改良整備については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の整備は難しい状況です。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 東日本大震災からの復興支援等に資する幹線道路網の整備について (12) 一般県道一関平泉線 ① 磐井橋（いわいばし）の歩道拡幅整備</p> <p>当市は、隣接する陸前高田市と宮城県気仙沼市への後方支援を継続しており、また、復旧復興に向け、工事関係車両やボランティア等の支援車両が、高速交通の要衝である当市を經由して被災地に向かっております。</p> <p>さらに、復興の先を見据え、新たな沿岸部のまちづくりに必要となる地域産業の再生と発展を力強く支援するため、沿岸と内陸の主要な物流拠点及び「平泉の文化遺産」、「三陸復興国立公園」といった観光拠点を結ぶ所要時間の短縮はもとより、将来に向けた安全安心なルートの確立は急務となっております。</p> <p>特に、国道343号の笹ノ田峠は、急勾配や急カーブ、冬期間の路面凍結、また、昨年度は土砂災害により長期間の車両通行止めになるなど交通に支障をきたし、安心して安全に通行できる新笹ノ田トンネルの整備が強く望まれております。</p> <p>平成26年（2014年）には一関市内のみならず、陸前高田市をはじめとする沿岸地域住民のみなさんからも合わせて9万人を超える署名が集まり、国及び県に対し要望しております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、県境を越えた防災連携の重要性は非常に高くなっており、災害時のライフラインを確保するための緊急輸送道路として、災害に強い道路や橋梁の整備が重要であります。</p> <p>については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、広域的なネットワーク機能を果たす幹線道路網の一体的な整備が必要であることから、次の路線の早期整備について要望します。</p> <p>3 その他の幹線道路網の整備 (12) 一般県道一関平泉線 ① 磐井橋（いわいばし）の歩道拡幅整備</p>	<p>歩道整備については、各地域から多くの要望があることから、必要性や緊急性の高い箇所から整備を進めています。</p> <p>御要望の箇所については、今後の交通量の推移、地域の沿道状況や県全体の進捗等を踏まえ検討していきますが、早期の事業化は難しい状況です。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>
<p>4 一級河川の河川改修事業の促進について 1 砂鉄（さてつ）川の治水対策の促進</p> <p>近年、局地的集中豪雨が多発し、急激な水位の上昇による浸水被害の危険性が非常に高くなっており、平成25年（2013年）7月の豪雨では砂鉄川の急激な増水による甚大な被害が発生するなど、早期の抜本的かつ恒久的な対応が必要となっております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、災害危険箇所の把握を進め、効果的な防災体制を整えることが重要となっております、当市では平成26年（2014年）4月に「洪水危険河川の監視計画」を策定し、河川の水位上昇に応じた水防体制や避難基準を整えているところであります。</p> <p>現在、北上川上流狭隘地区や一関遊水地等国直轄管理区間では、国が治水対策を進めておりますが、県管理河川等の整備・改修などは、国の進捗状況に併せた計画的な整備が必要です。</p> <p>については、市民の生命と財産を守り、浸水被害のない、安全安心で災害に強いまちづくりを進めるため、次の事項について早期に取り組むよう要望します。</p> <p>1 砂鉄（さてつ）川の治水対策の促進</p>	<p>砂鉄川の治水対策については、平成25年7月26日の豪雨による被災を受けて被害の大きかった松川～流矢地区について平成27年度までに松川地区、里前地区、流矢地区において河道掘削を実施し、松川堰及び洪民地区においては、特殊堤の整備を実施したところです。</p> <p>平成28年度も生出地区等において河道掘削を中心とした対策工事を実施していきます。</p> <p>また、曾慶川との合流区間については、築堤等の改修計画を策定し、平成27年度より用地補償調査に着手しており、平成28年度から改修区間の用地取得や家屋移転補償に着手することにしています。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>4 一級河川の河川改修事業の促進について</p> <p>2 北上川狭隘部の治水対策に併せた金流（きんりゅう）川の治水対策の事業化</p> <p>近年、局地的集中豪雨が多発し、急激な水位の上昇による浸水被害の危険性が非常に高くなっており、平成25年（2013年）7月の豪雨では砂鉄川の急激な増水による甚大な被害が発生するなど、早期の抜本的かつ恒久的な対応が必要となっております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、災害危険箇所の把握を進め、効果的な防災体制を整えることが重要となっております、当市では平成26年（2014年）4月に「洪水危険河川の監視計画」を策定し、河川の水位上昇に応じた水防体制や避難基準を整えているところであります。</p> <p>現在、北上川上流狭隘地区や一関遊水地等国直轄管理区間では、国が治水対策を進めておりますが、県管理河川等の整備・改修などは、国の進捗状況に併せた計画的な整備が必要です。</p> <p>ついては、市民の生命と財産を守り、浸水被害のない、安全安心で災害に強いまちづくりを進めるため、次の事項について早期に取り組むよう要望します。</p> <p>2 北上川狭隘部の治水対策に併せた金流（きんりゅう）川の治水対策の事業化</p>	<p>県としては、花泉町小沼地区等金流川沿川の北上川本流の背水影響区間について、浸水対策が必要と考え検討を進めています。</p> <p>これまで、小沼地区、永井地区において、地域の方々との意見交換会を実施し、平成28年1月には地元有識者出席により「金流川河川懇談会」を開催しました。</p> <p>平成28年度は、8月に事業導入に必要な河川法に基づく、「両磐圏域河川整備計画」を策定し、国に対し背水区間の治水対策について平成29年度交付金事業要望を行ったところです。</p> <p>今後とも、貴市の御協力をいただきながら早期事業化に向け、取り組んでいきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>
<p>4 一級河川の河川改修事業の促進について</p> <p>3 黄海（きのみ）川堤防の改修</p> <p>近年、局地的集中豪雨が多発し、急激な水位の上昇による浸水被害の危険性が非常に高くなっており、平成25年（2013年）7月の豪雨では砂鉄川の急激な増水による甚大な被害が発生するなど、早期の抜本的かつ恒久的な対応が必要となっております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、災害危険箇所の把握を進め、効果的な防災体制を整えることが重要となっております、当市では平成26年（2014年）4月に「洪水危険河川の監視計画」を策定し、河川の水位上昇に応じた水防体制や避難基準を整えているところであります。</p> <p>現在、北上川上流狭隘地区や一関遊水地等国直轄管理区間では、国が治水対策を進めておりますが、県管理河川等の整備・改修などは、国の進捗状況に併せた計画的な整備が必要です。</p> <p>ついては、市民の生命と財産を守り、浸水被害のない、安全安心で災害に強いまちづくりを進めるため、次の事項について早期に取り組むよう要望します。</p> <p>3 黄海（きのみ）川堤防の改修</p>	<p>黄海川堤防の嵩上げは、国土交通省が計画する黄海川水門の事業と調整する必要があります。県として水門整備の早期着工が図られるよう要望を行っていきます。</p> <p>また、平成19年9月に北上川の出水により被災した黄海川既設堤防の補強工事・漏水対策工事については、河川等災害関連事業等により、平成22年度で完了しています。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>4 一級河川の河川改修事業の促進について</p> <p>4 滝沢（たきざわ）川排水機場の整備</p> <p>近年、局地的集中豪雨が多発し、急激な水位の上昇による浸水被害の危険性が非常に高くなっており、平成25年（2013年）7月の豪雨では砂鉄川の急激な増水による甚大な被害が発生するなど、早期の抜本的かつ恒久的な対応が必要となっております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、災害危険箇所の把握を進め、効果的な防災体制を整えることが重要となっております、当市では平成26年（2014年）4月に「洪水危険河川の監視計画」を策定し、河川の水位上昇に応じた水防体制や避難基準を整えているところであります。</p> <p>現在、北上川上流狭隘地区や一関遊水地等国直轄管理区間では、国が治水対策を進めておりますが、県管理河川等の整備・改修などは、国の進捗状況に併せた計画的な整備が必要です。</p> <p>については、市民の生命と財産を守り、浸水被害のない、安全安心で災害に強いまちづくりを進めるため、次の事項について早期に取り組むよう要望します。</p> <p>4 滝沢（たきざわ）川排水機場の整備</p>	<p>県内の河川改修事業については、近年の洪水により家屋の浸水被害が発生した箇所を優先的に進めているところです。</p> <p>御要望の箇所は、平成23年9月の台風15号や平成24年5月の豪雨においては北上川の背水により田畑の浸水被害があったものの、家屋への浸水は無く、冠水した場合の道路の迂回路も確保されていることから、排水機場の早期整備については難しい状況です。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>
<p>4 一級河川の河川改修事業の促進について</p> <p>5 夏（なつ）川改修事業の県営ほ場整備事業に併せた事業促進</p> <p>近年、局地的集中豪雨が多発し、急激な水位の上昇による浸水被害の危険性が非常に高くなっており、平成25年（2013年）7月の豪雨では砂鉄川の急激な増水による甚大な被害が発生するなど、早期の抜本的かつ恒久的な対応が必要となっております。</p> <p>また、たび重なる災害の経験から、災害危険箇所の把握を進め、効果的な防災体制を整えることが重要となっております、当市では平成26年（2014年）4月に「洪水危険河川の監視計画」を策定し、河川の水位上昇に応じた水防体制や避難基準を整えているところであります。</p> <p>現在、北上川上流狭隘地区や一関遊水地等国直轄管理区間では、国が治水対策を進めておりますが、県管理河川等の整備・改修などは、国の進捗状況に併せた計画的な整備が必要です。</p> <p>については、市民の生命と財産を守り、浸水被害のない、安全安心で災害に強いまちづくりを進めるため、次の事項について早期に取り組むよう要望します。</p> <p>5 夏（なつ）川改修事業の県営ほ場整備事業に併せた事業促進</p>	<p>一級河川夏川の河川改修については、宮城県境から橋向橋までの約6.5km区間について、第Ⅰ期事業として昭和57年度に事業着手し、宮城県と連携しながら築堤等の工事を進め、平成19年度に概成しています。</p> <p>また、平成19年度からは、第Ⅱ期事業として夏川本川について第Ⅰ期の上流橋である橋向橋から上流の小谷地橋まで計画を延伸するとともに、支川の磯田川及び上油田川の2河川についても計画区間に含め、平成23年度から磯田川の堤防拡幅工事、平成24年度から夏川の堤防拡幅工事及び上油田川の構造物設計等に着手しました。</p> <p>平成28年度は、磯田川において築堤及び堤内水路工の付替を実施することとしており、平成29年度も、引き続き築堤及び堤内水路工の付替を実施することとしています。</p> <p>今後とも夏川については、右岸側の整備を行う宮城県と引き続き連携・調整を図りながら事業を進めるとともに、磯田川と上油田川についてもほ場整備事業と調整しながら引き続き事業を推進します。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

一関市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>5 両磐保健医療圏内の地域医療体制の充実について</p> <p>5-1 県立病院医療体制の充実について</p> <p>1 磐井病院</p> <p>(1) 耳鼻いんこう科への常勤医師の配置</p> <p>県立磐井、千厩、大東、南光の各病院は、地域医療の中心的役割を担っておりますが、医師不足が深刻化し、地域住民の生命と健康を守る上で適正な医療の確保が著しく困難な状況にあります。</p> <p>ついては、県立病院医療体制の充実について特段の措置を講じるよう次の事項について要望します。</p> <p>1 磐井病院</p> <p>(1) 耳鼻いんこう科への常勤医師の配置</p>	<p>県立磐井病院の耳鼻いんこう科への常勤医師の配置については、派遣元である大学においても医師の絶対数が不足しており、非常に厳しい状況が続いています。</p> <p>県においては、関係大学を訪問し医師の派遣を要請するほか、即戦力となる医師の招聘活動に積極的に取り組んでいるところであり、引き続きこのような医師確保対策の推進を図りながら常勤医師の確保に取り組んでいきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>		<p>B</p>
<p>5 両磐保健医療圏内の地域医療体制の充実について</p> <p>5-1 県立病院医療体制の充実について</p> <p>1 磐井病院</p> <p>(2) 小児科、産婦人科、外科、呼吸器科及び形成外科への常勤医師の増員</p> <p>県立磐井、千厩、大東、南光の各病院は、地域医療の中心的役割を担っておりますが、医師不足が深刻化し、地域住民の生命と健康を守る上で適正な医療の確保が著しく困難な状況にあります。</p> <p>ついては、県立病院医療体制の充実について特段の措置を講じるよう次の事項について要望します。</p> <p>1 磐井病院</p> <p>(2) 小児科、産婦人科、外科、呼吸器科及び形成外科への常勤医師の増員</p>	<p>県立磐井病院の小児科、産婦人科、外科、呼吸器科及び形成外科への常勤医師の増員については、派遣元である大学においても医師の絶対数が不足しており、非常に厳しい状況が続いています。</p> <p>県においては、関係大学を訪問し医師の派遣を要請するほか、即戦力となる医師の招聘活動に積極的に取り組んでいるところであり、小児科の常勤医師については、平成28年4月1日から1名増員したところです。</p> <p>今後においても、このような医師確保対策の推進を図りながら常勤医師の確保に取り組んでいきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>		<p>B</p>